

朝まだ暗いうちから、部屋の外から、タンクが「カンカン」とぶつかり合う音が聞こえてくる。
その音が僕にとってのこの場所での目覚ましの合図。カメラの準備をして外に出る。
そこでは、これから昇る朝日を待ちわびるように
黄金色に輝く美しい海と、穏やかな水面に並び、出番を待つバンカーボート、
そしてその合間を縫うように、漁場へ向かう小さなアウトリガーに乗ったフィッシャーメンたちが
音も無く水面を走っていく姿が目にとまる。
カメラのシャッターを切りながら、スタッフたちが黙々とタンクをボートに詰め込むのを眺める。
さあ、今日もここリロアン・マリンビレッジで、ダイビング三昧の1日が始まる。

Cebu Island, Philippines

Liloan

リロアンマリンビレッジの実力

Photo Takaji Ochi Special thanks Marinevillage, World Tour Planners
Design Tomato

フィリピン
セブ島最南端の
ダイバーズビレッジ





水深18m 以浅！ シャローで魅せる リロアンハウスリーフ



06

06/リロアン周辺を潜る小型ディンギーは部屋の目の前のエントリーポイントで乗船可能

07/取材のガイドを担当してくれた、チーフガイドの関口さん



02



03



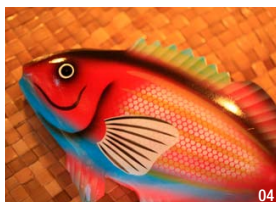
07

01/海に張り出した水上レストランの先端は、朝日が昇ってくるのを眺めベストポイント

02/マネージャーの陽子さんが、愛犬パディを連れて朝の挨拶にやってくることも

03/水上レストランで朝日を浴びて、読書を楽しむ

04/レストランには木彫りの魚が並ぶ
05/朝の挨拶にやってきたパディの愛くるしい表情にやられる



04



05

リロアンは、フィリピンのセブ島の最南端に位置する。セブ・マクタン空港からは車で約3時間。リロアンは現地ピサヤの言葉で「渦」を意味する通り、セブ島とネグロス島に囲まれた海峡には、渦潮のような強烈な流れが発生することもある。

そのためか、この潮の流れに乗って、リロアンにはいろいろな変わった生物が流れてくのだという。

そんな環境でもあり、マリンビレッジのあるリロアン周辺の海では、水深20mより浅い海域で、十分に生物の観察、写真撮影が楽しめるフィールドが点在している。それだけ多くの被写体に恵まれているわけだ。

ということで、今回現地についてから、取材担当ガイドをしてくれた関口さんと相談の結果、急に決まったテーマが「マリンビレッジのホームグラウンド、リロアンハウスリーフ周辺、水深18m以浅のポイントで、しかもコンパクトデジカメでも撮影を楽しめちゃう被写体を紹介し、

撮影のノウハウを伝授する」というもの。

そんなこと言っても、コンデジ持ってきてなかったから、写真はデジタル一眼で撮影しているの、コンデジの人

には、参考になる部分があれば、難しすぎて、参考にならない部分もある。場合によっては、マクロのコンバージョンレンズを装着しなければ撮影できないような小さな被写体もある。第一僕が撮影方法のノウハウを伝授して……。そう前置きした上で、じゃあ、水深18mより浅い海で、どんな撮影を楽しめるのかを提案していきたい。名づけて「シャローで魅せるリロアンハウスリーフ、リロアン撮影術！ by 越智隆治」……。ちょっとくさい感じがするけど……。まあ、いいや。

それから、なぜ水深18mなのかと言うと、オープンウォーターの人が潜れる深度だから。単純にそれだけのだけど。今回の取材では、実際遠征先も含めて、一番深く、23mまでしか潜っていない。ダイビングの取材でそれって、結構珍しいことだと思う。

Cebu Island, Philippines
Liloan
Marine Village
Web-lue 2009.Winter

Information Link <http://www.wtp.co.jp/renewal/liloan/index.htm>

01/水深5mほどの浅場から生息するレモンズメダイ。青から薄いオレンジへのグラデーションが美しいズメダイ。イラク

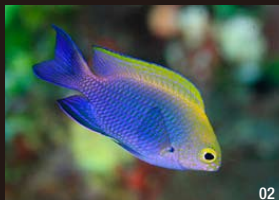
02/ブリーカースダムセルは、普段は深場にいることが多いのだけど、なぜか13mくらいの浅い場所に姿をみせることも。ホワイトロック

03/イラクでは、個体数の多いストライプドヘッドワーフコビー。岩の下にいたりするので、真横は難しいかもしれないけど、あまり逃げないから粘ってみよう。水深8m

04/アカククリの幼魚は、岩の下の空間で、ゆらゆら、うろろうしていることが多い。タイミングを見計らえば、意外と簡単に真横の写真が撮影可能だ。イラクの水深10m



01



02



03



04

今回このテーマのフィールドとして潜ったのは、マリビレッジハウスリーフ、それにパワーレンジャーと呼んでいる小型ボートで5分とかからないイラク、ホワイトロックといった、リロアン周辺のポイント。

魚だけでなく生き物を撮影する上で、真横の写真は、基本中の基本。魚類図鑑などでも真横の写真は重要だ。しかし、重要だからと言って、コンデジで簡単に撮れるものでもない。動いている被写体をコンデジで真横から撮影するのは難しいかもしれないが、構図をしっかり取る練習という意味でも、魚たちの真横からの写真を撮ることを心がけてみよう。



05

05/動かないから、撮影がしやすい、キリンミノカサゴ。ハウスリーフ、水深8m

魚本来の色彩の美しさ、形などがはっきり表現できるわけで、斜め前とかから撮影するよりも、撮影テクニックや粘りが必要な写真だから、綺麗に撮れたときには、ちょっと嬉しくなるはずだ。

最初は、イロカエルアンコウ、ミノカサゴ、ハゼなど、あまり動きまわらない被写体で練習し、慣れてきたら、ズメダイ、ベラなど動き回る被写体にチャレンジしていけばいい。

黒いボディにオレンジのフチドリがきれいなアカククリの幼魚は、時期によってはよく見ることができる。岩の下などに潜っていて、近づくとその中でオロオロしていることが多いので、タイミングを見計らって、真横写真をゲットしよう。

06/イロカエルアンコウも、リロアンでは良く見かける。この黄色い個体の他、今回のロケでは、計4個体も見せてもらった。しかも、浅いのは5m程度、深くても13m程度で見ることができた。ハウスリーフ水深5m



06



07

07/個人的には体色が好きなラボックスラス。個体数も多くて、浅場で群れを作ることも。ベラは動きが早くても難しいが、群れでホバリングすることがあるので、そこを狙ってみたい。ホワイトロック水深11m

リロアン 撮影術

PART

図鑑に載ってるような、真横の写真を撮ってみる

01

Cebu Island, Philippines
Liloan
Marine Village
Web-lue 2009.Winter



01/ニラミギンボは一見地味だけど、そこはギンボの仲間。正面顔は、やはり滑稽で愛くるしい。ハウスリーフ水深5m

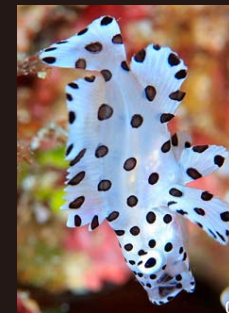
02/粘りに粘って、アクビシーンを狙っただけけど、結局開けてもらえず。それでも正面顔は何カットも撮影させてもらった。白いイロカエルアンコウ。ホワイトロック、水深13m



02



03



04

04/半透明の体に、黒い水玉がダイバーに人気のサラサハタの幼魚。水深15mほどの小さなサンゴの根に住みつけていた。結構頻繁に口を開けていたので、撮影できた。ホワイトロック

05/ストライプヘッドフコギョーのあくび。これはちょっと撮影は難しいかも。イラク、水深8m

そして、撮影に慣れてきたら、1つの被写体で、「これでもか」ってほど粘ってみる。マクロ撮影をする上で、良い写真が撮りたければ、粘りが必要なのは当然のこと。何度も撮影していくうちに、徐々にまとまった、自分の気に入った構図が見つけ出せるもの。瞬時に状況が変わるワイド撮影ではなかなかそうはいかないが、マクロであれば粘れる機会もあるわけなので、潜水時間やダイビングコンピュータ、ガイドさんとの相談の上ではあるけど、同じ被写体で今までより少し時間をかけてみるのはどうだろう。

それができるのもマリンビレッジのダイビングスタイルだ。

今回はハダカハオコゼ（ハウスリーフの水深12m）のほぼ正面顔のアクビの瞬間や、サラサハタの幼魚（ホワイトロックの水深15m）のアクビの瞬間を撮影してみた。こういうちょっとしたアクションの瞬間を撮影しただけで、写真にバリエーションが増えるし、写真撮影に気持ちが入っているのが感じられて、写真を見せられた方も「お、頑張ってるな〜」と関心させられる。



05

リロアン撮影術

PART

02&03 真正面顔を狙う&粘ってみる

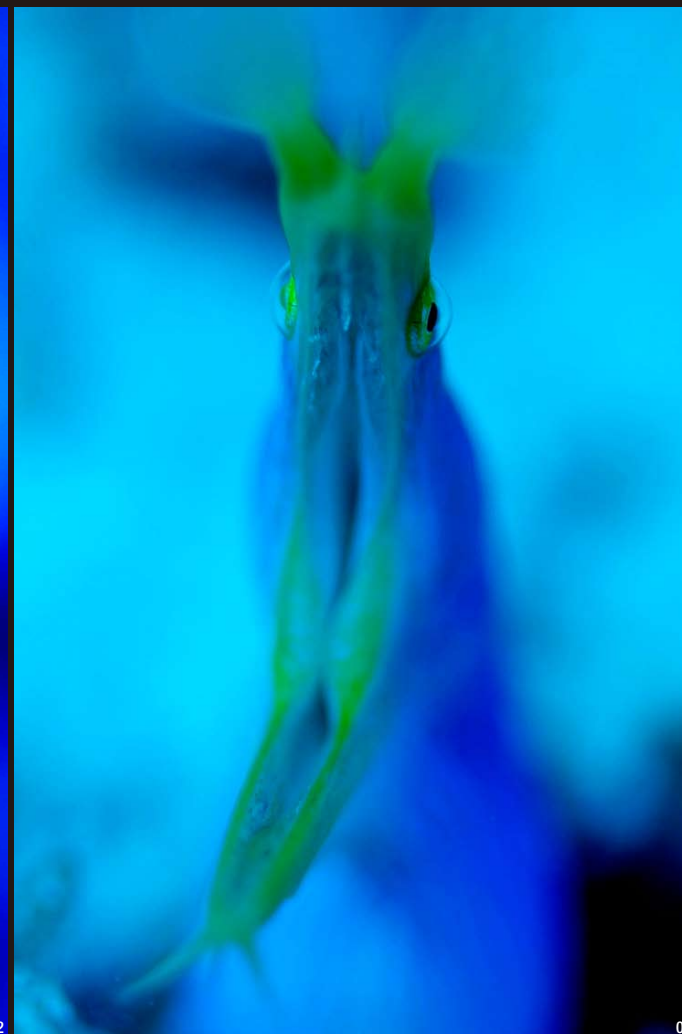
Cebu Island, Philippines
Liloan
Marine Village
Web-lue 2009.Winter

こちら正面顔のハナヒゲウツボ（イラクの水深8m）の
写真。しかし、普通にストロボをたいて撮影するよりも、自然
光で、ホワイトバランスをいじって、ちょっと遊んでみる
のも面白い。これは、自然光で、
モードを白熱灯ライトのモードに合
わせる。すると、撮影画像が青く
なる。被写体の色や、背景など
によって、効果があったり、なかっ
たりするけど、特に黄色いハナヒ
ゲをこの設定で撮影したら、自然
光なので、当然シャッタースピード
も遅く、露出も開放で、ボケ味が
増して、青の中に融合するように、
黄色の体色が美しく表現できた
と思う。



コンデジでも、白熱灯下での撮影モードはついているも
のが多いと思うし、その他にも様々な撮影モードがあると思
うので、余裕を持って、こういう設定で撮影にもトライして
みるのも面白いと思う。

これも、水深が浅いからこそ、余裕を持ってできることだ。



リロアン 撮影術

PART

自然光でホワイトバランス調整して遊ぶ

04

01/これは、普通にストロボ光をたいて撮影したハナヒゲウツボ 02/ホワイトバランスを白熱灯に設定して、自然光で撮影した黄色いハナヒゲウツボ。シャッタースピードが遅くならないように、ISO感度を上げる必要がある。ホワイトロック、水深8m 03/こちら白熱灯モードで撮影した、ノーマルなハナヒゲウツボ。ホワイトロック、水深7m

Cebu Island, Philippines
Liloan
Marine Village
Web-lue 2009.Winter

Information Link <http://www.wtp.co.jp/renewal/liloan/index.htm>

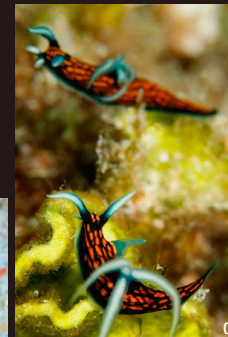


01/ニシキフウライウオのメスのお腹にある育児のうち詰まった、卵。呼吸するように、大きく開くこともあるので、そのタイミングで撮影できれば、中の卵もはっきり見えることも。イラク、水深12m 02/ウミウシの種類も多いリロアン。あちこちで、こうらウミウシの交接シーンも見ることができた 03/卵をお腹に抱えた、コロールアネモネシュリンブ。肉眼では、生息しているパラオクサビラインが邪魔にもなって、なかなか卵を持っているのを確認するのは難しいけど、ガイドがちゃんと教えてくれる。ハウスリーフ 04/ヒゲニジギンボが貝の中に卵を産みつけているのを見つけた。貝に入って、必至に卵を守る。ハウスリーフ、水深2m

生物層が豊富であること、水深が浅いこと、ポイントが近いということは、生物の観察を容易にしてくれる重要な要素。減圧停止時間をあまり気にすることなく、少しでも長い時間1つの生物を観察していただけるということは、それだけ、一つの生物に向き合って撮影することが可能ということ。

ガイドの人たちは、どこで何が卵を持っているとか、そういうことも把握していることが多い。そういう意味でも生態

写真には是非トライしてみたい。今回は、貝殻の中に卵を産みつけたヒゲニジギンボ（ハウスリーフの水深3m）、や卵持ちのコロールアネモネシュリンブ、同じく卵持ちのニシキフウライウオ（イラクの水深12m）などを撮影。被写体を撮影している間にも、ガイドの関口さんが、新たなターゲットを捜索してしてくれるから、とても効率よく撮影できた。テーマを決めて落ちると、ガイドもそのテーマに合った被写体をしっかりと探してくれるのが嬉しい。



05/これもウミウシの交接前の写真。下のウミウシが側面から交接器を伸ばしているのが確認できる。ハウスリーフ水深5m

06/ゴールドスベックジョーフィッシュが口内保育しているところ。ハッチアウトの時期には早すぎて、あまり大きく口を開くシーンは見られなかった。イラク、水深12m

07/ヒゲニジギンボの卵のクルーズアップ。目が出てきた幼魚もかわいいが、笑っているように見える卵もかわいい



リロアン 撮影術

PART

生態撮影

05

Cebu Island, Philippines
Liloan
 Marine Village
 Web-lue 2009.Winter

Information Link <http://www.wtp.co.jp/renewal/liloan/index.htm> click! 関連情報HPへ



01



02

01/サンゴの上を歩いていたウミウシを少し横斜め下からのローアングルで、バックが青く抜けるように撮影。ハウスリーフ水深3m

02/こちらは、シャッタースピードをストロボと同調可能な一番早いスピードにして、絞りこんでバックを抜いて撮影。ナイトで撮影したような写真になる。ハウスリーフ水深3m



03

03/リロアンはウミシダも多く、カラーバリエーションも豊富。同じバラサカクレエビでも、何色かのカラーバリエーションの撮影が楽しめる。こちらは、青く抜いた写真。良い位置にエビを持っていくのはガイドの協力が必要だ。ハウスリーフ水深10m

04/こちらは、黒べたで撮影したバラサカクレエビ。ハウスリーフの水深10m

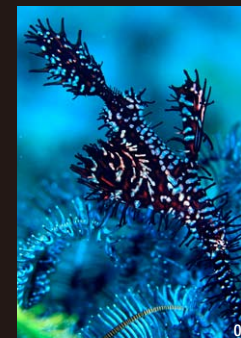


04

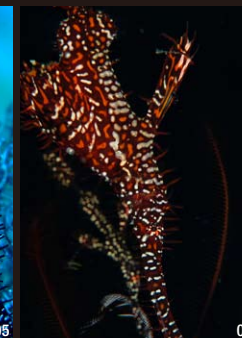
マニュアル設定の無いコンデジで撮影しやすいのは、青抜きバック。黒べたはナイトダイビング、あるいは洞窟の中とかでない、なかなか普通のコンデジでは難しい。どちらにしても、バックに余計なものが入ってこないようなアングルからの撮影を試みる。

多くの場合、かなり低いアングルから被写体を少し見上げる位置取りで撮影を行えば、バックを青い海で抜くことができる。

リロアンは緩やかなスロープ状地形で、被写体を下から見上げて撮影しやすいので、青抜き撮影がしやすい環境にある。



05



06

05/同じニシキフウライウオを青抜きした場合。イラク、水深11m

06/そして、こちらが、バックを黒べたで撮影したニシキフウライウオ。イラク、水深12m。どちらを選択するかは、好みの問題

07/これも、同じ黄色いイソバナガニを青抜きで撮影。ハウスリーフ

08/そして、黒べたで撮影した場合



07



08



09

09/最初の「真横で撮影してみる」で登場したアカククリの幼魚。オレンジのラインが際立つので、黒べたで撮影しても面白いかもしれない

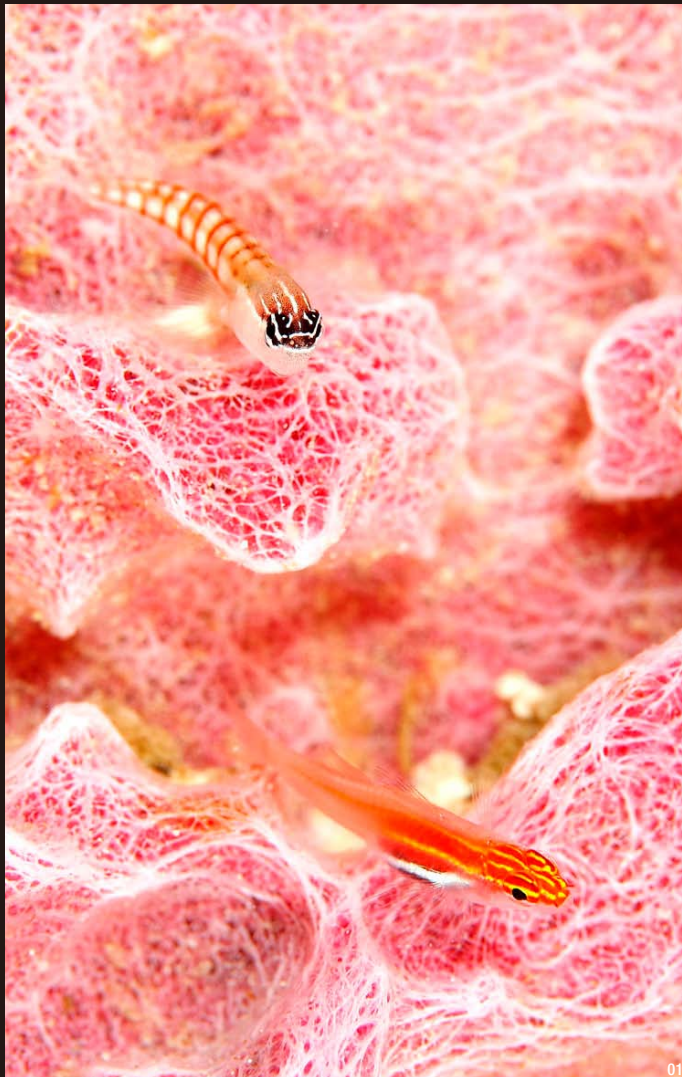
リロアン 撮影術

PART

青抜き or 黒べた

06

Cebu Island, Philippines
Liloan
Marine Village
Web-lue 2009.Winter



01/赤いカイメンの上に乗っかっていて、ジレンマとシロオビハゼ。シロオビハゼはとにかく個体数が多いので、このような綺麗な生息環境を写し込んだり、他の生物との絡みで撮影するのも面白い。ハウスリーフ

02/こちらもシロオビハゼ。緑色のキクメインに乗っかっているところを撮影。ハウスリーフ

03/ウミンダについて泳ぐ、メラネシアンアンティアスの幼魚。潮が適度に流れている方が撮影しやすい。ハウスリーフ

04/環境は際立つ場所ではないけど、ニラミギンボとタテジマヘビギンボをヘアで撮影。顔が滑稽で面白い。ハウスリーフ

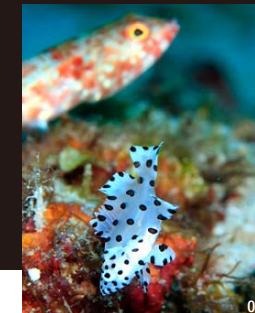
05/かわいいウミブドウに乗ったリングアイビグミーゴビー。イラク



これはコンデジでも一番狙い安いはず。被写体に寄りきらず、周囲の美しい環境を上手に写し込んで、写真を作りこんでみる。気をつけなければいけないことは、生息環境となるスポンジやサンゴなどの選択と構図の取り方。まずは、カラフルな色彩を持つものを選ぶこと。そして、構図の中に、余計な部分が入りこまないようにすること。

この撮影方法であれば、ときに2種類の違った生物を写し込むなど、ワンランク上の撮影を目指すこともできる。2匹の魚が一つの写真に納まっているだけで、何か物語性が生まれてくる可能性があることも知っておこう。

リロアンの海は、サンゴやソフトコーラル、スポンジなどのカラフルさが目立つ海底環境にある。こうしたカラフルな海底環境を上手く写し込んで撮影することを心がけると、綺麗な写真が撮影できる。



06/獲物を狙い、じっとしているエソの側をゆらゆらと泳ぐサラサハタの幼魚。ホワイトロック

リロアン撮影術

PART

環境を写し込む

07

Cebu Island, Philippines
Liloan
 Marine Village
 Web-lue 2009.Winter



Information Link [click! 関連情報HPへ](http://www.wtp.co.jp/renewal/liloan/index.htm)
<http://www.wtp.co.jp/renewal/liloan/index.htm>

最後は、ワイドコンバージョンレンズなどを装着しての撮影。これも、ある意味では、周囲の環境を写し込みながら生物の撮影が可能だ。ワイコンをつけて、生き物に寄るのは、なかなか困難なことだと思うけど、やはりリロアンには、このワイドマクロ的撮影に適してる環境、生物が揃っていると思うので、常にマクロばかりではなく、たまには、フィッシュアイでの写真にもチャレンジしてみよう。

最近では、陸上で虫の目レンズと呼ばれている特殊なレンズを使って、このワイドマクロ的な撮影をすることもちょっとしたブームになっているようだ。

01/平なカイメンの上に乗った姿が滑稽なおニカサゴ。ちょっと寄りが甘く感じるけど、周囲の環境を写し込むことで、面白さが引き立っている。ハウスリーフ

02/同じ被写体（オニカサゴ）をマクロで撮影。状況が分かりづらいので、面白さが半減している

03/ソフトコーラルに群れるキンギョハナダイとメラネシアンアンティラス。リロアン周辺は、カラフルなソフトコーラルも多く、このような写真を撮れる環境も結構ある。そういう意味でも、ワイドにも積極的にチャレンジしたい海だ。ホワイトロック水深15m



04/オオモンカエルアンコウは、やはりワイドレンズが必要。本当は粘って、口を開けたところを撮影したかった。ハウスリーフ



リロアン 撮影術

PART

ワイコンを装着して撮影する

08

Cebu Island, Philippines
Liloan
 Marine Village
 Web-lue 2009.Winter

Information Link <http://www.wtp.co.jp/renewal/liloan/index.htm>



遠征ダイブ

リロアンを起点として、
少し離れた海への遠征ダイブのエリアも広範囲なのが、
マリンビレッジの特徴。
ゲストのリクエスト次第で、大型のバンカーボートを駆使し、
隣のネグロス島やスミロン島、
そしてアポ島、バリカサグ島といった、
フィリピンでも屈指の人気ダイビングサイトへの遠征も可能だ。

スミロン、アポ、バリカサグ、ユタ、バリエーションに富んだ遠征ダイブ

美しいサンゴの群生が楽しめる、スミロン島

Cebu Island, Philippines
Liloan
Marine Village
Web-lue 2009.Winter

Information Link <http://www.wtp.co.jp/renewal/liloan/index.htm>



遠征
ダイブ

浅い、砂地に太陽光が差し込むと、とても癒された気分でのんびりと浮遊間を楽しむことができる



01/ サンゴの上には、たくさんのハナゴイ（パープルビューティー）たちが群れている 02/ ベタ風の海の上をゆっくりと島へ近づいていく
03/ 船上でプリーフィングして、さあ、エントリー 04/ ここでは是非見てもらいたいマクロ生物、バーチクダムゼルの幼魚



SUMILON Is.

スミロン島

バンカーボートで30分と、遠征先としては、ユタに続き近い距離にあるのがこのスミロン島。バリカサグ遠征に行くときには、この島は右手に、セブ島を左手に見ながら通過していく。このスミロン島の売りと言えば、太陽の光りが差し込む、浅い砂地とリーフエッジのサンゴの群棲。そして、そのサンゴの上で群れ泳ぐ、パープルビューティーやメラネシアンアンティアスといったハナダイたち。



04

何気ない海中風景ではあるけど、リロアンからの遠征ポイントの中では、一番の癒し系ポイントでもある。1年前に訪れたときには、健在だったクマノミ城のイソギンチャクが無くなっていて、ちょっと閑散としてしまった印象を受けたのは残念だった。しかし、サンゴなどは、周期的に成衰を繰り返しているようで、綺麗で、撮影にもってこいだったサンゴがダメになっていた。逆に以前来たときにはボロボロだったサンゴのエリアが元気に回復していたりということもよくある。

本当に復活するかどうかは、時を経てみないと定かではないけど、あちこちの海で、年代を経てそういう盛衰を直に見てきた僕にとっては、とても感慨深いものだ。特に諦めていたサンゴが復活していたりすると、本当に「よく頑張ったな〜」と感動する。

マクロの被写体としては、あまり個体数は多くないものの、バーチクダムゼルの幼魚が、かわいくておすすめだ。リロアン周辺ではバーチクダムゼルの幼魚がほぼ確実に見れるのはここだけ。いついっても、だいたい同じポイントで、体色のそっくりなクオロビスズメダイの幼魚たちの群れの中に、1〜2匹だけちゃっかり混じって泳いでいる。

もちろん、小さくてチョコチョコ動き回るし、コンデジでの撮影はなかなか難しいかもしれないけど、とにかくその動きもかわいい。

フィリピンで個人的に好きなスズメダイが、このバーチクダムゼルと濃紺と黒のボディが美しいスプリングーダムゼル。こちらの方は幼魚よりも、成魚の方が、色彩が美しい。この2種は、何度フィリピンを訪れても、見つけると必ず撮影したくなる。

Cebu Island, Philippines
Liloan
Marine Village
Web-lue 2009.Winter

Information Link <http://www.wtp.co.jp/renewal/liloan/index.htm>

アボ、バリカサグも、リロアンからの遠征先として重要なダイブサイト。距離はアボがバンカーボートで約80分、バリカサグが約110分。実は今回の取材では、この二つのポイントで潜る選択を捨てて、ユタへの遠征に重点を置いた。その理由については、最後にお伝えする。

だから、今回ここに掲載した写真は、前回（1年前）に訪れたときに撮影した写真のみだ。アボ島の特徴は、サンクチャリーの浅場のサンゴの森と、その森の上で優雅に群れを作るギンガメアジの若魚たち。とても癒し系な明るい海の中で、ギンガメアジの群れる姿を見ることができる海ってそんなに無い。

そして、マムサというポイントでのターゲットは、成長したギンガメアジの群れ。ドリフトで潜るのだけど、流れも早いときが多く、流れに乗るとあっと間にメインのギンガメポイントを通してしまうこともある。潮的には、なぜか大潮時期より、小潮時期の方が流れが強くなるそうで、ギンガメアジの群れも、小潮のときの方が狙いやすいのだとか。

バリカサグは、リロアンからの遠征先として一番遠い島だけど、フィリピン屈指の人気ダイブサイトでもある。ギンガメやバラクーダの巨大な群れ、グルクマの集団捕食シーンリーフトップのサンゴの根に群れ泳ぐハナダイの見事な乱舞など、見ているだけで、気持ち良くなれるシーンだ。

そして、そして、ここでは是非見たいのが、この近辺のガイドたちから「幸せを呼ぶ」と言われている黄金のバラクーダ。群れの中に1匹だけ金色をしたバラクーダが混じっていて、運が良ければこのバラクーダに遭遇することもあるかもしれない。



APPO Is. BALICASAG Is.

アボ島 バリカサグ島



01



02

01/アボ島では、要塞のような岩山に守られて立つリゾートが印象的 02/バンカーボートから、ジャイアントストライドで、海へエントリー 03/バリカサグ島のハナダイの群れは圧巻だ 04/バリカサグ島の名物、ゴールデンバラクーダ



03



04



06



07

05/アボ島のサンクチャリーのサンゴの大群生 06/バリカサグ島名物、バラクーダの群れ 07/そして、アボ島名物、ギンガメアジの群れ

Cebu Island, Philippines
Liloan
Marine Village
Web-lue 2009.Winter



遠征
ダイブ

驚愕のユタ!

Negros Is.

目の前を通過するミミックオクトパスに興味津津のセンネンダイの幼魚たち

Cebu Island, Philippines
Liloan
Marine Village
Web-lue 2009.Winter

Information Link <http://www.wtp.co.jp/renewal/liloan/index.htm>

遠征
ダイブ



驚愕のユタ

01/砂地で見つけたイッポンテグリ 02/ウミエラに身を隠し、流れを避けるミヤコシモチの幼魚 03/砂地に点在しているトウアカクマノミのコロニーでは、卵を守るペアの姿も 04/水深15m付近からこのメタリックシュリンプゴビーの個体数が増えてくる 05/小指の爪サイズのかわいいイロカエルアンコウの幼魚を見つけた



タイや漁礁には、沢山のカイメンやサンゴが付着して、海底のアート作品のようにになっている。そこにミノカサゴやセンネンダイの幼魚の姿が

Negros Is.

一体何から撮影すればいいの! ?
リロアの対岸、ネグロス島砂泥地状スロープで展開されるマクロワールド



ネグロス島のポイントは、海岸の村に面した砂地に点在している

今回の取材で、一番力を入れたのが、マリンビレッジから、船で20分、ネグロス島のユタと名付けられたダイビングサイト。ユタとは現地言葉で単に「土地」の意味だという。

意味わからないと、かっこいいんだけど、意味聞いちゃうと、「じゃあ、次は土地に行きましょう」ってことなので、「え? 次はどこ?」と聞き返すと、皆が「土地、土地」って言い返しているわけで……。そう考えると、なんか面白い。

なぜこのポイントに力を入れたかと言えば、かなり高確率でミミックオクトパスに遭遇するチャンスがあるからということ。ミミックオクトパスとは、その名の通り、様々な生物へ擬態をされると言われているタコ。今ではダイバーが一度は会いたい、レア生物の上位に入っている。僕はこのミミックを、このユタというポイントでどうしても見てみたかった。

海岸線にある集落の前のビーチで潜るのだが、バンカーボートを停泊させるのは、水深5mほどの海草の生い

茂るエリア。そこから、エントリーしてしばらく沖に向かうと、伊豆で見られるような、黒砂泥の緩やかなスロープが姿を見せる。

多くの生物は、この緩やかなスロープで見ることが出来る。ブラックシュリンプゴビー、メタリックシュリンプゴビー、レイドシュリンプゴビー、ヒレナガネジリンボウなどのハゼやトウアカクマノミや、レアで知られるセンネンダイなどの個体数も多いポイントだ。

Cebu Island, Philippines
Liloan
Marine Village
Web-lue 2009.Winter

Information Link <http://www.wtp.co.jp/renewal/liloan/index.htm>



子供たちが元気に遊ぶ、ユタのビーチ

驚愕のユタ！

一体何から撮影すればいいのい！？
リロアンの対岸、ネグロス島砂泥地状スロープで展開されるマクロワールド

今回は、遠征先でもこのユタにスポットを当てるということで、2日間にわたって、まるまるこのユタを潜り倒した。

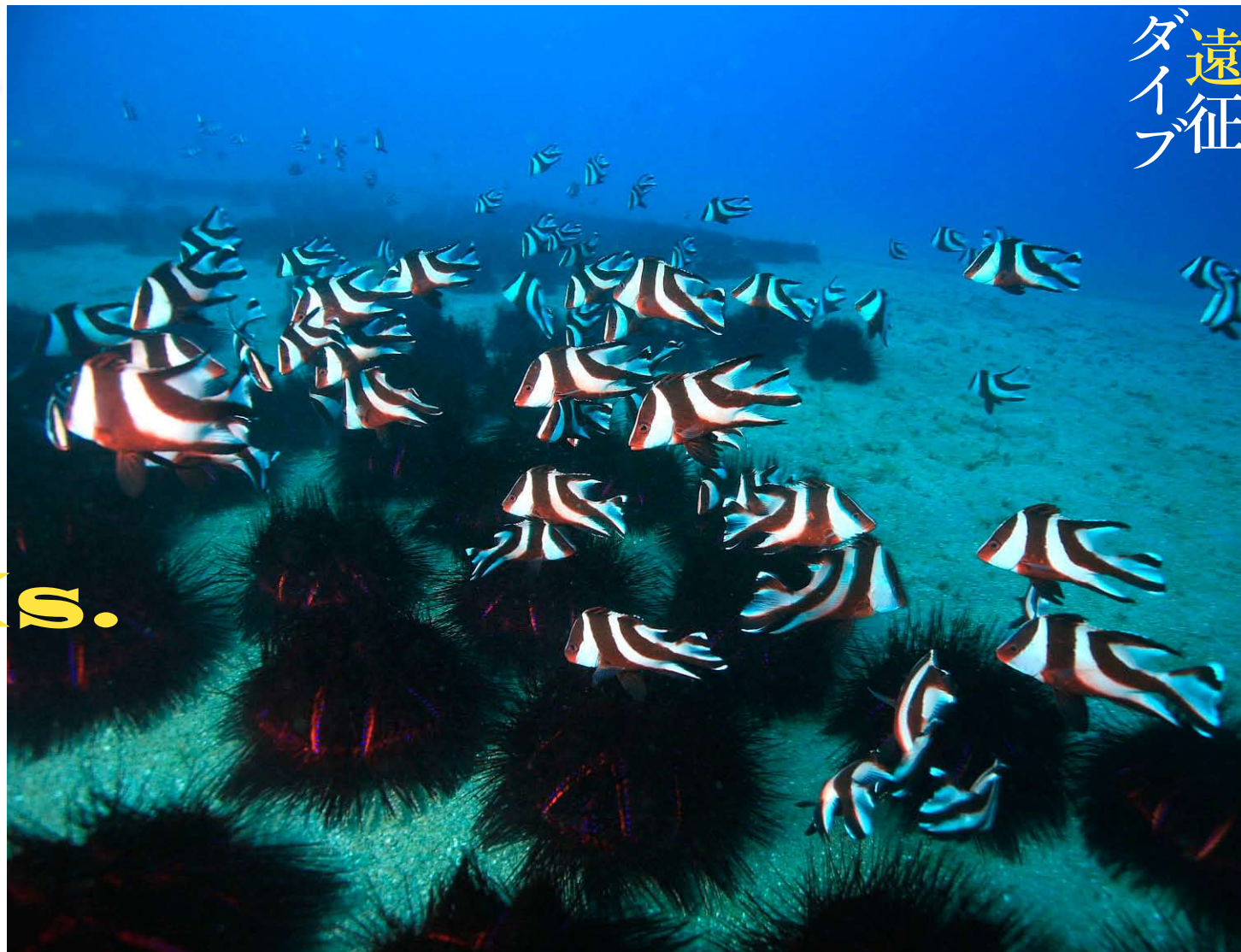
その初日、とんでもない光景に遭遇。ミミックを探しながらガイドの関口君と砂泥地のスロープを進んでいくと、目の前にぼんやりと黒い物体が広範囲に集まるエリアが……。それはクロウニの群れだった。センネンダイの幼魚がよくこのクロウニについていることが多いので、僕はそちらに向かってみることにした。

Negros Is.

そこには、信じられない光景が！なんとセンネンダイの幼魚たちが僕に気づき、わらわらと僕に向かって泳いできた。その数約50匹。それだけでも興奮するのに、その後方には、その数をはるかに上回るセンネンダイとクロウニが……。

僕は興奮して、激写を始めた。しかし普通に撮影したのでは、その群れの多さが上手く表現できない。指示棒を使ってセンネンダイたちを一か所に追い込んで、何度も何度も撮影した。はっきりした個体総数は数えられないが、200匹は群れていたのではないと思う。

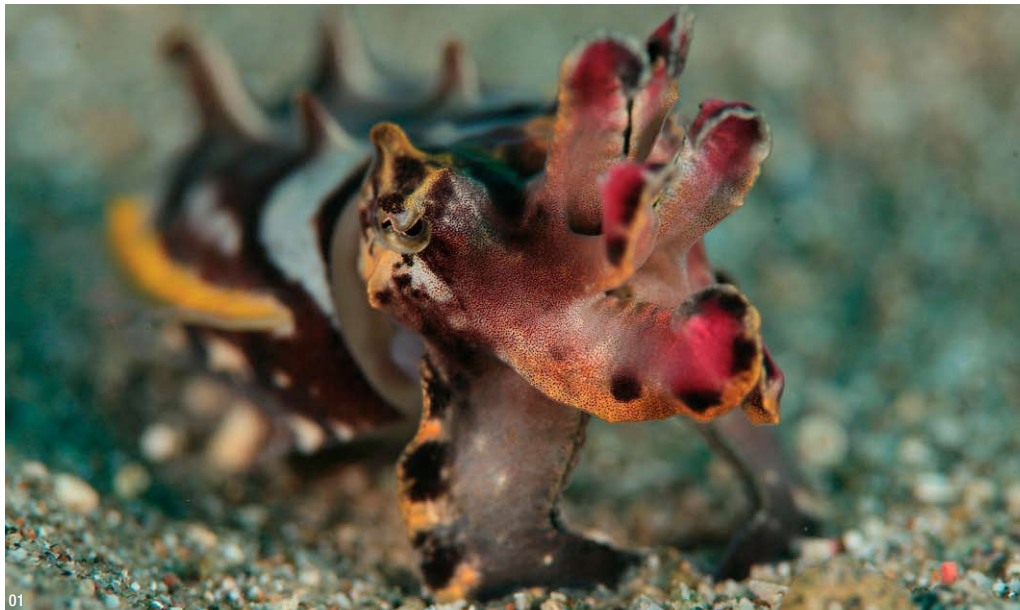
目的のミミックは見逃したものの、こんな光景に遭遇できただけでも、ユタに来た甲斐があるってものだ。



遠征
ダイブ

Cebu Island, Philippines
Liloan
Marine Village
Web-lue 2009.Winter

200匹はいるのではなかとと思われる、センネンダイの群れに大興奮



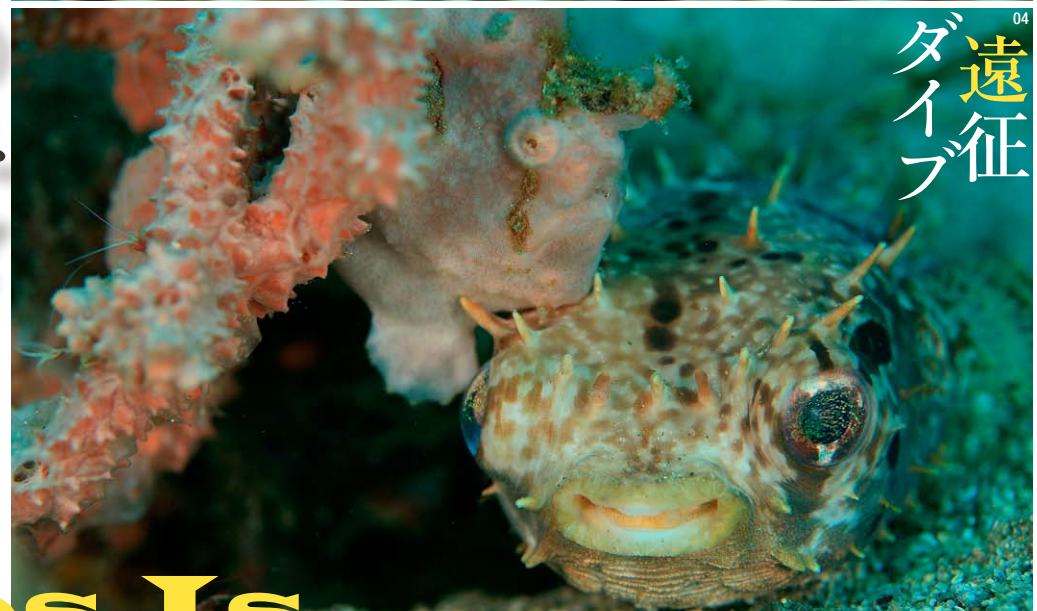
01



02



03



04

驚愕のユタ!

遠征
ダイブ

Negros Is.

最後にはこんな凄いことになっちゃった

右にミミック、左にハナイカ、前にセンネンダイの群れ、後にカエルアンコウのペア

01/ミミック撮影中に、突如姿を見せた、ハナイカ (フランボヤンカトルフィッシュ)

02/目の前には、センネンダイの幼魚の群れが……

03/ 念願のミミックオクトパス出現
04/ 小さなカイメンと一緒に寄り添っていた、イロカエルアンコウのペアとメイタイシガキフグ

Cebu Island, Philippines
Liloan
Marine Village
Web-lue 2009.Winter

遠征 ダイブ

驚愕のユタ!

Negros Is.

最後にはこんな凄いことになっちゃった

右にミミック、左にハナイカ、前にセンネンダイの群れ、後にカエルアンコウのペア

01/イロカエルアンコウのペアとメイタインガキフグのいるカイメンに近づいていくミミックオクトパス

02/最少は巣穴からゴルフボール大の頭の部分しか出していないで、なかなか見つけ出すのは困難だった

03/様子を見てると、少しずつ触手を伸ばして、姿を現わしはじめた

04/緩やかな砂泥地のスロープで、ミミック搜索をする関口さん



リロアンでのダイビング最終日はユタで3本のダイビングを敢行。この日はベテランフィリピン人ガイドのランディーも投入してくれて、エントリー。もちろん、目的はミミックオクトパス。すでにミミックの巣穴があるあたりは見当がついているとのこと。そのエリアまで行くと、彼はあっという間にミミックを2個体も発見。さすが、眼力のすごさには感服する。1本目は巣穴から完全に姿を見せることなく終わったのだが、2本目には1匹が全身を外に出してくれた。もうそのときの興奮たるや。しかも、そのとき、僕は近くのクロウニに群れるセンネンダイの幼魚の群れや、その近くのカイメンにくっついていたペアのカエルアンコウとハリセンボンの姿が滑稽で、そちらの撮影をしていたのだ。

急にタンクが鳴らされ、そちらに急行すると、ミミックは海底を這うように移動しながら、そのセンネンダイの群れと、カエルアンコウのペアの方に向かっていく。「もしかして、すごいことになるかも……」。その時点で、僕はミミックとセンネンダイの幼魚の群れ、カエルアンコウとミミックが一緒に写真なんか撮影出来ちゃうかもしれない状況を予測していたのだった。

その予測通りに、ミミックは群れの側に、そしてペアの近くにと、うろろうと移動を続けた。もちろん、僕が執拗に追いかけていたせいもあるとは思うけど。ガイドのランディーと関口さんはそんな僕をフォローしようとミミックの前に立ちほだけり、逃げないようにしてくれていた。

流れが早く、潮の前に二人が回り込むと砂泥がモクモクと巻きが合ってしまう。自分も流れに逆らって体固定す

るのもがいて、砂煙を上げる。しかし、それも瞬時の内に下に流されていく。潮下は、まるで砂丘の砂嵐状態。そんな中、僕の足元でランディーがまた別のものを見つけた。よくよく見ると、な、なんとハナイカ（フランボヤンカトルフィッシュ）！。

「おいおい、この後に及んで、今度はフランボヤンかよ〜」と思いながらもレギュレータをくわえたまま「ん〜!」と嬉しい悲鳴。

ほんの束の間、ミミックを置き去りにして、そのハナイカも激写。そしてまたミミックの撮影に戻る。するとミミックは「もう追いかけてこないで〜」とばかりに、全身を伸ばして海中を移動し始めた。その様子に、「お、なんだなんだ、何か変なものがあるぞ〜」と好奇心旺盛なセンネンダイの幼魚たちが、のぞきにやってきた。

僕は、もうほとんど同じ場所を動くことなく、ミミック、ハナイカ、センネンダイの幼魚、イロカエルアンコウのペアに囲まれ、しかも一人で撮影を行うという、ダイバーとして、水中カメラマンとして至福の時を過ごしたのだった。

でもあんまり興奮しすぎてストロボの光がちゃんと回ってなかったりしたんだけど。それにしても、正直、こんな凄い状況なかなか経験できそうにありませんから、プロといえど興奮するのはしょうがないんです。それぐらい、ユタの海は衝撃的でした。

とにかく、ミミックオクトパスに関しては、今現在これほど確実に巣穴が確認できているのは世界広しといえどもここだけではないかと思う。もちろん、100%確実ではないのだけど。



Cebu Island, Philippines
Liloan
Marine Village
Web-lue 2009.Winter

01/水上レストランが人気のマリンビレッジ。ハウスリープのエントリーポイントは、部屋から30歩！

02/講習用プールもあるため、ここでCカードを取得するダイバーも多いといか

03/最近リフォームされた、デラックスルームの室内

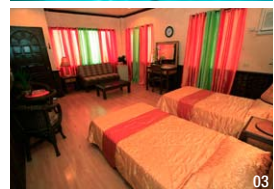
04/水上レストランの先端には、海を眺めながらくつろげる、オープンスペースエリアがある

05/デザートもふんだんに用意されている

06/最近ゲストに人気の茶わん蒸し

07/大きなマングロープガニがディナーにすることも

08/リロアンに精通した熟練ガイドが揃うマリンビレッジのダイビングスタッフの面々



Information マリンビレッジ & アネックス・ブンガビラ

今回は、マリンビレッジから、読者の方へのプレゼントを受け取ってきた。マリンビレッジオリジナルのTシャツと、防水バッグ、それに今回の取材でも活躍した指示棒だ。

このオリジナルグッズを欲しい方は、WEB-LUEのお問い合わせページから、「リロアンマリンビレッジ、オリジナルグッズプレゼント希望」と記載の上、どのプレゼントが欲しいかをしっかりと明記して、送信してください。なお抽選の結果は発送を持って代えさせて頂きます。

プレゼント



10/広い敷地でゆったりとくつろげる、アネックス

11/海に面した広いプールがプライベート感もあって、人気

12/リビングからの海の眺めも最高

●リロアンオリジナルTシャツ、女性用S、M、L各1着づつ（絵柄はすべてニチリンダテハゼんで白）

●リロアンオリジナルウォータープルーフバッグ 白と青2個

●リロアンオリジナル、ガイドも愛用している指示棒 1つ



マリンビレッジは、2007年にフィリピンで一番多く講習を行ったサービスということで、2008年よりPADI GOLD PALM RESORTに選ばれた。レンタル機材等の安全基準をしっかり満たし、ライフジャケット、酸素キットなども常備。アドバンス、レスキューなどへのステップアップコースを選ぶ人も多し、ファンダイブ感覚でできるスペシャルティ受講者も多い。中でもフォトスペシャルティコースを受ける人が多いのがマリンビレッジの特徴。

部屋は、デラックス、セミデラックス、エコノミーの3カテゴリー。海が見張らせるテラスや、講習用のプールもある。ハウスリープに突き出した水上レストランも情緒があって、リラックスできる。朝日や夕日を眺めるには最高のロケーションだ。

今回、メインの撮影フィールドとして様々な生物たちを撮影したハウスリープは、「部屋から30歩でエントリーできる」のが売りのまさにダイバーのためのリゾートだ。

ガイドで日本人マネージャーでもある陽子さん、チーフガイドの関口さんを筆頭に、フィリピン人ガイドのランディーなどリロアンでのダイビング経験豊富なスタッフが揃っていて、リロアンの海の魅力を余すことなく、紹介してくれる。

アネックス・ブンガビラは、マリンビレッジから車で5分ほど離れた場所にある。部屋は広々としたリビングに入口があり、階下のベッドルームからは、直に海に面したプールへとエントリーできる。長期滞在型のゆったりくつろげるリゾート感のあふれたホテルだ。ダイビングのサービスは、マリンビレッジで行っている。

Cebu Island, Philippines
Liloan
Marine Village
Web-lue 2009.Winter

Information Link <http://www.wtp.co.jp/renewal/liloan/index.htm>